

要旨

背景

ターナー症候群は低身長と卵巣機能不全を主症状とする症候群であり、成人期には小児期に発症した合併症の管理に加え、女性ホルモン補充療法や成人期特有の合併症の予防と治療が必要である。しかし、成人期以降の長期フォローアップは十分ではない状況が明らかとなっている。成人ターナー女性に関わる看護職者はターナー症候群の基本的な知識や支援体制の現状について学び、継続的看護支援を行うことが望ましい。

目的

本研究は、看護職者を対象に、eラーニングを用いて「成人ターナー女性の看護教育プログラム」を作成し、内容妥当性および適切性について評価を行うことを目的とする。

研究方法

研究デザインは、eラーニングを用いて教育プログラムを作成し、その内容妥当性と適切性を検討する評価研究である。文献を基に教材を作成し、eラーニングサイトを構築した。教育プログラムの評価を有識者7名に依頼し、研究者が作成した自記式質問紙を用いて内容妥当性と適切性について回答を得た。本研究は聖路加看護大学倫理審査委員会の審査・承認を得て実施した。(承認番号 12-053)

結果

教育プログラムの目的は、看護職者が成人ターナー女性の健康管理に関する問題を解決するため、ターナー症候群についての基本的な知識や支援体制の問題点について学び、継続的看護支援の必要性と看護支援方法を学ぶことができたこととした。教育プログラムの内容は、「第1回ターナー症候群とは?」「第2回ターナー症候群の特徴と看護支援の必要性」「第3回看護支援」「第4回支援体制の問題点と課題」の全4回で構成した。受講の前後に事前事後テスト14問を設けた。

教育プログラムの内容妥当性について医師4名、看護職者3名から評価を得た。目的、目標、目標に沿った内容、事前事後テストの各項目において7名のうち4名以上が「はい」と回答し、肯定的な評価だった。また、看護職者が身につけておくべき基本的知識や看護支援方法の網羅性について、6名が「はい」、1名が「いいえ」と回答し、概ね高い評価が

得られた。今後の看護実践へ役立つかという項目については、2名が「とてもそう思う」、5名が「そう思う」と回答し、教育プログラムの有用性について肯定的な評価であった。しかし教材の内容に多数の指摘があり、数値データ、内容の見直し、内容の追加、表現、構成について修正の必要性が示された。

eラーニングの適切性については看護職者3名に実施してもらい評価を得た。文字、色、手順、操作の説明、操作のしやすさ、学習したいコースや画面への到達のしやすさ、学習方法としてのeラーニングの適切性の項目について、全員が「はい」と回答し、高い評価が得られた。また、所要時間、全体および各講座の長さについて、全員が「そう思う」と回答し肯定的な評価だった。

結論

本教育プログラムは、eラーニングの適切性については確保されたが、内容妥当性の確保には至らなかった。しかし教育プログラムの方向性や枠組みについては概ね支持され、看護実践への有用性も示された。また、内容妥当性を確保するために、今回の評価を基に内容の改善を行った後、看護職者を対象としたパイロットスタディを実施し、対象者の多様性とニーズに沿った内容へ洗練していく示唆を得た。